

研報 06-2

第2回HRC研究報告会外部評価シート

開催 場所	本学・4号館・5F	開催 日時	平成18年12月2日(土) 13:00-17:00
外部評価委員 所属・職・氏名	大阪大学・大学院 マルチメディア工学専攻 教授・薦田憲久		
総 評			
<p>プロジェクトが開始して半年強で、これからの研究の基礎となるデータも順調に集まりだしている。順調に研究がスタートを切ったという感じ。同種のアプローチが少ないやり方をしているものが多く、本質的に研究の方向性に問題ないか再検討するとともに、目標に至るマイルストーンを再設定して欲しい。また、他の研究状況における位置づけや優位性の確認をしっかりとって欲しい。グループ4については、プロジェクト全体にどのように関連するのかストーリー作りが必要。</p>			
グループ1 評価			
<p>液晶のNMRスペクトルに、良く一致するシミュレーションパラメータが見つかった。シミュレーションでは結果の解釈が重要で、結果を説明する理屈も考えて欲しい。また、色々なケースについて、同様の検討をするのも良いが、早くこの結果を次のステップに活用することを目指して欲しい。</p>			
グループ2 評価			
<p>レーザーアブレーションによるカーボンナノチューブ(CNT)の生成に成功して、非線形光学素子開発という目標に向かって、研究の第一歩は踏み出している。CVDやアーク放電による方法が主流のようであるが、量産が難しいレーザーアブレーションによるCNT生成のアプローチで問題はないか常にみておく必要がある。</p>			
グループ3 評価			
<p>光記憶用の酸化物薄膜が生成でき、その特性が取れだしている。類似研究が少ない酸化膜薄膜の特性を反映した個性的なデバイスを目指して欲しい。目標とするターゲット仕様、パラメータを早期に設定して欲しい。各社が多層化、多値化による次世代大容量記憶用の開発が盛んであるので、その動向も把握して4年後に特色あるデバイスが開発されていることを期待したい。</p>			
グループ4 評価			
<p>既存のオンラインショップで提供されている情報項目を調査しているが、本来の目的である購買者モデルの作成や効果的な情報提供方法の検討には結びつかない。どういう情報提供が良いのか、購買者はどういう反応するのか、という仮説の上でそれを確かめる実験サイトを設計するのが本道であろう。また、本プロジェクト中のテーマであるので、例えば、大容量の記憶デバイスが安価にできたときにオンラインショップでどういう情報提供が可能ということも考えることも重要であろうと思う。</p>			